

# 1. 調査報告概要表

作成日平成 20 年 4 月 1 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470203005
法人名	NPO法人 もちもちの木
事業所名	グループホーム 土橋のおうち
所在地	広島市中区土橋町5-35 (電話) 082-394-9324
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(2008 年 2 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	11.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート4階建造り		
	4 階建て	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1400 円			

### (4) 利用者の概要( 7 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	1 名	要介護4		6 名	
要介護5		要支援2			1 名
年齢	平均 88 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人藤田医院 もちもち歯科医院 広島記念病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平和公園に程近い広島市内の繁華街に位置し、ビジネスホテルを改装した都市型グループホームとして開設7年目を迎えた。この間に積み上げられてきた地域密着型サービスの役割と、事業所の力を活かした地域貢献等により、近隣の方々との散歩の声かけにはじまり日常のさりげない支えあいなど、事業所と地域の連携と交流を見事に実現されている。また、地域の医療系大学と協働しながら、「ITも活用した介護記録のデータベース化により「時系列による継続介護の実現」と「家族への情報開示」を目指す先駆的取組みは、これからのグループホームは基よりさらには他のサービス事業者への普及、広がりを期待したい。ホームの理念としては「やさしい心 迷ったり探さぬように そばにいるよ!」は職員はもとより地域にも理解されており、それらも奏功し、職員の定着率も高く馴染みの関係づくりにも効果が現れている。職員がケアについて意見の統一を図っているのは、運営者の理念を職員が共感しないと実現できるものではなく、「利用者のために」を問いつける姿勢は定着されていると感じられた。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では特に改善点はなかつたが、その後の取り組みとして今以上に理念の具体化を推進されており、地域での地域密着型サービスとしての役割と存在を高められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が、自己評価の意義や目的をよく理解し、また認識もされており、これらの評価をサービスの質の向上に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 義務的な開催ではなく常に職員の自主的なスキルアップとして、地域への情報発信者として認知症高齢者への理解、啓発活動など、具体的課題を討議しながら地域のホームはどうあるべきかに取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 月次の報告に止まらず、さらには来訪時などを通じて積極的な情報収集の対応に加えて、介護記録のデータベースを活かし家族は自宅にしながら、いつでも入所者の生活の様子や健康状態等の日々の状況をインターネットから知ることができる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の商店、町内会とはすっかり馴染みの関係が構築されている。また、小学校、幼稚園などとは、定期的な交流を行われている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「やさしい心 迷ったりさがさぬよう そばにいるよ!」を念頭に置き、これらを地域との力を活かしながらグループホームの存在、入所者の存在をより密接で馴染みのものになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を意識と理解をしながら、日々の業務の中で活かすように努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会をはじめ地域行事には、積極的に参加している。また、ボランティア登録者名簿も整えられており、ホームの行事には地域の人々をはじめとして多くの来訪者があり積極的に交流がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たっては、評価の意義とねらいについてを運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでおり、改善に向けての具体的な検討や実践につなげるための努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人々からの意見・評価や支援助力など得たものは、活用しながら「会議」の内容をより充実したものにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あらゆる会議、研修に参加しながら、その情報などを具体的にそして、日々の支援に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月個々に書面で定期的に報告している。さらにはインターネットで事業所や利用者の状況報告を家族は利用できるような環境がある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの家族との情報を共有することによって、不満や苦情はすばやく対応できる体制ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高く、このホームならではの利用者との馴染みの関係は素晴らしく整っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外を問わず研修体系は計画化されており、これらには関係者が定期的に通講している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは定期的な交流ネットワーク立ち上げており、絶えず情報交換や勉強会を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	あくまでもご本人の意思、思いを優先し、無理のない関係づくりが行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	サービスの受け手にならないよう、日頃から出来ること、そうでないことへの個別的に把握し、的確にこれらを生活のメリハリにつなげている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	絶えず利用者が何を望まれているのかを日頃の状況と家族から情報を把握しながら、一人ひとり細かく対応されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月、モニタリング会議が開かれ意見交換、反省を行い質の向上につなげている。また、その内容は必ず家族にも報告されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月のモニタリング会議から必要と判断された場合は、随時見直しが行われている。また、ホーム独自のデータベースからの読み取りにより情報の共有はその精度を高いものにしてている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が運営するデイサービスと逆デイサービスなどを互いに利用しながら、メリハリを付けながら柔軟なサービスを実現している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等とは、受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合い、合意の上かかりつけ医の受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所歴の長い方もありターミナルへの取り組みには、医師、常勤看護師をはじめとし、定期的な意見交換や、また、研修等を通じて充実したものとなっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あくまでもご本人の意思、思いを優先し、無理のない関係づくりを行っている。また、記録は個人名ではなくイニシャルで記入されており個人情報の守秘義務を守るようにされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別のタイムスケジュールを作成し、これに基づく日々の支援が行われており、ゆとりを感じた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にはさりげない声かけと支援体制で行われており、このあり方にはスキルの高さを感じられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別の要望を優先させながら体調管理により、週2日以上を目途にゆつくりとした入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴、介護記録等を基に、また、これに加えて個々の要望を的確に把握し、日々の楽しみを取り入れ具体化している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人が希望すればいつでも外出できる体制が整っており、また、更に体調等をみながら外出を積極的に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出て行く気配を職員は見落とさない見守りや連携プレーで、鍵をかけないケアとして取りくんでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練、避難訓練等は、地域の支援と消防署の協力により年2回行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理とバランス管理は個別に行い記録されており、また、職員はそれぞれ関係分の個別ごとに情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花鉢、ミニ花壇、金魚鉢などを置き季節感の演出をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を活かした物品等が各々の居室に配置されており、居心地のよさが演出されている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 土橋のおうち

評価年月日 20 年 2 月 28 日

記入年月日 20 年 3 月 10 日

記入者 職 管理者 氏名 竹岡 廣行



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念「やさしい心 迷ったり探さぬよう そばに いるよ!」の理念の下に地域の方との共有を目指 して、自分らしく生きる・暮らせるように支援 する		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取 組んでいる。	個人の権限を尊重し、拘束せず、自由に日々を 過ごして頂くよう取り組んでいる。日常業務の 中で且つ、カンファレンスにおいて、常に理念 を基にサービス提供する事を、管理者を中心に 徹底している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取 組んでいる。	地域の会合に積極的に参加したり、事業所を協 議の場として提供し、理解していただけるよう に努めている。いつでも事業所を見学して頂け るように開放している		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気 軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよ うに努めている。	町内会やスーパー、近所の方等知り合いも多く、 気軽に声かけや挨拶ができるようになった。 また、近隣での買い物や清掃に努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、 行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努 めている。	地域行事や祭り、子ども会等に、利用者・スタ ッフと一緒に参加し、交流を図っている。 また、お正月等の記念行事等には、町内会の方 にボランティア等が入っていただき、交流を図 っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会と一緒に、月に一回会合を開いて話し合いを行っている。 また、事業所内の会議でも少しずつではあるが協議している。 一人暮らしの高齢者宅をの把握を図っている		地域の地図を広げ、一人暮らしの高齢者宅等に声掛けをしていく
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎日の自己反省を基に運営者・管理者と意見交換を行い、常に改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に行っている。 評価を活かして、具体的に地域の方と協議する場を設け、定期的に会合を開いている 意見を地域の方に積極的に発言してもらっている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	あらゆる行政等との会議等に臨み、具体的な向上に努めている。行政との懇談や研修に参加している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、サービスに生かされるように努力している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修への参加と共に、月々の会議等で職員が心をつちにして、管理者とも意見を交換し、防止策に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族等に十分な説明を行い、不安や疑問がないよう納得いくまで理解してもらった上で、契約を行っている。ゆっくり時間をかけての話し合いをもっている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営に関する意見は反映しているが、一度も不平をきいたことがなく、スムーズに運営が行われている。利用者が意見を言える雰囲気とそれを可能な限り反映しようとする職員の意識はある		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	最低でも月に1回は、毎日の様子や行事等の報告を家族へ送っている。 また、時事の報告もインターネットを通じて閲覧できるようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に、家族等からの話をお聞きできる体制を整えている。 また、何か不満や苦情がある場合は、管理者に報告を行い、改善をしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者とは日々会うことも多く、何でも語り合っている。 また月に一度全体会議を開き、意見・提案等を協議している。		。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整に応じてもらえるような、話し合いが持たれている。お互いにそつなく話し合いをしている。また、行事等では、ボランティアとして積極的に活動している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>移動はないので、ほぼいつも馴染みのスタッフが関わり支援している</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員に常に情報や研修内容を知らせ、参加を促している。また、その報告を会議で行い、皆で共有している</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者の大きな交流ネットワーク勉強会への参加により向上をすすめている。更なる交流を持ちたい</p>	○	近隣の事業所との交流をはかる
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常的には、体調や顔色を見ての声かけや相談に応じている。また、個人の日報があり、様々なことを相談できる            年に何回かは職員の交流を図るための交流会を行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>月に1回の全体会議にて個々の業務や研修、活動等を報告し、情報を共有するとともに、切磋琢磨できるような場を設けている。また、自己評価も年1回行い、向上できるような取り組みを行っている</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人を含め、周囲の環境をよく検討し、聴く機会を設け、努力して対応している。日々の不安をなくすため、話しをし、穏やかに過ごしていただけるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会の度に「何か不安・相談はありませんか」と声かけをして、何かあれば管理者に相談し、解決している。利用者の意見をよく聴く機会を持ち、受け止める努力を怠らない。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一つのサービス利用に偏らず、支援を見極め、他の事業所やサービスの利用等も含め、自由に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の想いを尊重し、無理なく徐々になじめるように努力している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りの他、日常生活を行ううえでの仕事等を一緒にし、出来ないことを他の利用者から学んだり支えあって生活している。利用者から、日々学んだり、考えさせられたり、喜んだり等々の関係を築けていると思う		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも気軽に来て頂いたり、行事等へも参加して頂いている。またこちらからの日々の情報もこまめに連絡している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	個々の背景を知り、家族関係も個々で違うことを理解して日々関わり、家族と職員の関係、あるいは家族と利用者の関係がより良い状態で維持できるよう努力している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の意志や希望を大切にし、馴染みの物を部屋に置いたりしている。馴染みの人との関係は、特に制約なく自由に交流できるよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係がスムーズにいくように、また、支えあいができるように座る席を考えたりしている。皆で話しをしたり、歌を一緒に唄ったりすることが多く、楽しみを共有することで、お互いの気持ちが少しでも繋がるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	常に利用者や家族とは、末永い関係を大切にしている。		。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望を大切にしている。意思の表出が困難な利用者も、家族の意見や本人の生活史を参考にし、出来るだけ本人が良い思いで暮らせるように意識して関わっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者のバックグラウンドを重視し、個人の理解へ努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の状態を常にITにより管理・情報の共有を行っている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のモニタリング会議により、意見交換・反省等を行い、話し合ったことは家族に伝えている。家族にはありのままの情報を提供し、家族からの意見や情報を頂きケアに生かせるように考えている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のモニタリング会議により、ケアの見直し等を定期的に行うと共に、緊急時のケアの見直しも臨機応変に行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別で日々の記録を残し、スタッフが毎日チェックを行っている。毎日情報をITにより共有し、常に個別ケアを図っている。本人の様子と介護状況がわかるようデータを入力している		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	時々、ディサービスの方と交流したり、ミニ音楽コンサートや、お正月の食事会を一緒にして、普段とは少し違った気分を味わって頂く等の支援をしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、町内会、ボランティア等が集まっている。消防や警察等とも密接な関係を保つとともに、ボランティアの受け入れも積極的に行い、密接な関係を保ち、協力・支援を受け、大変安心感をもたれている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の意思を尊重し、受けたいサービス利用を支援し続けている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	常に協議し合い必要性を提供している。 運営推進会議には必ず出席して下さるので、地域の情報や意見等を頂いている		。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	常に24時間待機のかかりつけ医師をもち、支えてもらい家族にも安心感をもって頂いている。 電話での相談はもちろんのこと、場合によっては時間を問わず往診もして下さり、とても地域医療に理解があるので、職員も安心して日々の支援に取り組める		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当の医師をもち、月に1回の内科受信、週に1回の歯科往診等、常に相談ができ、緊急時にも支援頂いている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職の職員を中心に、健康管理等を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	安心して入退院できるように、常に連携を深めているが、あまり長期に入院することがない。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ターミナルケアを心がけ、会合等にも参加し、繰り返し対応の話し合いがもたれている。 看護師とも意見交換を行っている。 人生の継続という視点から、特別なケアでなく、日々の生活がターミナル期ともいえるので、その時々を大切に関わりたいと考えている		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ADL, 認知度共に重度化しつつあるので、かかりつけ医との連携や緊急時の対応等、看護師を含めて話し合っている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	過去にこのようなケースがない。	○	今後の検討事項として、協議していきたい。

### その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

- 1 その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	親しい仲にも礼儀あり の実践。 日報、記録物等に個人名を記載しない等の対応を行っている。		。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意思確認できる人には自己決定して頂いている。意思疎通が難しい方にも、できるだけ納得していただけるような支援を行っている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望により散歩をしたり、生活をする上での家事等の仕事を共有したりして、できることを一緒にいき、ゆとりを持って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2ヶ月に1回、訪問美容院を利用している。 身だしなみは、常にスタッフが気を配っている 特に朝は、服装や髪型等を整えたりの支援を行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	常に一緒に食事作りや片づけを行い、食事のみならず、日常生活の中の営みとして楽しみながら行っている。食事内容については、スタッフが常に栄養、食べやすさ、好み、彩り等考えて切磋琢磨しているので、利用者からも毎日喜ばれている		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に楽しめるように要求を支援している。		。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツはずしを実践できるように、記録をつけ、時間ごとにトイレ誘導を行ない、いつも気持ちよく生活できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	最低でも2日に1回は、体調を見ながら入浴を楽しんで頂いている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調に留意しながら、支援している。特に高齢の利用者には、昼間の休息を短時間とって頂くことで、その後の体調が安定している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌が好きな人は一緒に唄い、食事の下ごしらえができる人は一緒に調理する、洗濯物たたみや買い物等、個々にあった役割りや楽しみを考え支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	共に買い物に行き楽しんでいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調等を考慮しながら、買い物や散歩等の外出支援を行っている。その他の外出についても、希望によりいつでも支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。</p>	<p>以前は、小旅行なども行っていた。 最近では、季節を楽しめるように近郊へのドライブ等を行っている。また、家族が望めば、いつでもどこでもいける体制がある。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>代筆や電話の取次ぎ等、自由に出来るよう支援している</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも気軽に来て頂いている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について学ぶと共に、もしそれに近いことがあれば、スタッフ全員で理解するまで協議を行っている。 身体拘束は一切しておらず、自由である。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中はいつも全開です。(9:30~16:00)</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフの声かけによる安全確認を行っている。日中、夜間共に利用者の所在確認や安全確認には特に気を付けている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の持ち物に配慮し、誤飲等につながる物は排除し、スタッフが日々確認を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	何かあった場合は、ヒヤリハットをつけ、スタッフが協議し事故防止に努めている。		
70	急変や事故発生への備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	救急蘇生法などの研修を受けている。 緊急時の対応については、体制作りをし、もしもの時に備えている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練・非難訓練等を年に2～3回行っている。また、地域の協力を常に促し、連携をとっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族が納得できるまで個人個人のリスクについてスタッフが協議しながら、なるべくリスクを少なくする方法を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調の記録をつけ、スタッフが共有し、有事に速やかに対処している。 毎朝、体調チェックをし申し送りで情報を共有し、継続して支援できるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>受診後や薬の変更があった時は特に、薬の目的や服用法等を申し送りし、スタッフが共有して、その後の健康管理に対処できるようにしている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を検討すると共に、腹部マッサージを実施したりしている。食事内容及び水分補給等は常に意識的に支援している</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔内の洗浄やうがい、歯磨き、義歯の洗浄等、個々の口腔内の状況に合わせて必ず実施している。また、毎週1回、訪問歯科医による、口腔内チェック等を全員行っている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養の調整、バランス等は、スタッフが個々に支援するとともに、記録をつけ情報を共有している</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>実施している。 (インフルエンザの予防接種、調理者の衛生管理、手洗い・うがいの徹底、毎日の掃除の徹底等)</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、毎日新鮮な物を使い、残った物は日付をつけ、早めに使い切るようにしている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	清潔を保ち、地域とのバランスも考え、緑を絶やさぬように、また、季節の花を植えて親しみやすい雰囲気を作っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や廊下には、写真や書き物、季節の行事に関係するもの等を飾っている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング・ダイニングでの席の配置等を工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や家にあった物等を飾り、自室でそれを見ながら話をしたりして利用者と過ごしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節に応じて、温度、湿度調整している。 調理時の換気及び、時々、窓を開け居間の換気に配慮している		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーではない分、車イス使用は特別な状況の時だけなので、利用者は出来る限り自力での歩行(介助)で生活している。寝たきりの人はいない できるだけ自立への促しを行っている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>生活環境はなるべく変化させないこと。風呂やトイレ等はわかりやすいよう張り紙を貼っている</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>朝の天気に応じて、一階のアウトドアで歌を謡ったり、話をしたりして楽しんで頂いたりしている。天気の良い日は、屋上に上がり、洗濯物干しを一緒にしたり、日向ぼっこをしている</p>		